

2026 JAPAN FID NATIONAL TEAM Training Match



日時	2026年5月3日 9:30kick off					試合形式	90分			
会場	さくらスタジアム					ピッチ状態	天然芝			
日本代表			4	3	1set	2	3			
			1	1	2set	1	栃木シティ U-18			
警告・退場		2set	1set	チーム合計			1set	2set	警告・退場	
		9	11	20	シュート	10	5	5		
		3	4	7	GK	10	7	3		
		7	2	9	CK	4	3	1		
		2	4	6	直接FK	9	3	6		
		0	2	2	間接FK	3	1	2		
		0	2	2	(オフサイド)	3	1	2		
		0	1	1	PK	0	0	0		



【得点経過】

前半 (45分)

- 7分[日本] 幾島
- 26分[栃木C U-18]
- 40分[日本] 横井
- 41分[栃木C U-18]
- 45分[日本] 幾島

## 後半（45分）

4分[栃木 C U-18]

8分[日本] 下鶴

## 【交代】

## 前半（45分）

31分[栃木 C U-18] IN NO. 35 ⇔ OUT NO. 44

35分[栃木 C U-18] IN NO. 40 ⇔ OUT NO. 38

## 後半（45分）

0分[栃木 C U-18] IN NO. 21 ⇔ OUT NO. 41

0分[栃木 C U-18] IN NO. 26 ⇔ OUT NO. 34

0分[栃木 C U-18] IN NO. 33 ⇔ OUT NO. 36

0分[栃木 C U-18] IN NO. 37 ⇔ OUT NO. 19

0分[日本] IN 奥田 ⇔ OUT 越智

10分[栃木 C U-18] IN NO. 39 ⇔ OUT NO. 32

19分[栃木 C U-18] IN NO. 5 ⇔ OUT NO. 25

19分[栃木 C U-18] IN NO. 10 ⇔ OUT NO. 20

23分[日本] IN 大久保 ⇔ OUT 幾島

33分[栃木 C U-18] IN NO. 35 ⇔ OUT NO. 15

36分[日本] IN 梅村 ⇔ OUT 奥田

39分[日本] IN 福原 ⇔ OUT 大久保

44分[日本] IN 結城 ⇔ OUT 佐藤

44分[日本] IN 徳村 ⇔ OUT 原田

45分[日本] IN 池上 ⇔ OUT 下鶴

## ゲームコンセプト

「全員攻撃/全員守備、良い守備から攻撃へ、90分 total の戦い」

## 攻撃コンセプト

- ・中央突破(2人はDF間突破+3人コンビネーション)
- ・サイド崩し(ソロ)(コンビネーション)(ニアゾーン)  
→ニア・プルバック・ファー
- ・ビルドアップ  
→少ないタッチ+パススピード(サイドチェンジ・意図的な緩急)+サポート

## 守備コンセプト

- ・1vs1で絶対に負けない
- ・前線、中盤の守備、ゴール前の守備 (PAに入らない・2ブロックコントロール)
- ・クロス対応 (同一視・人をつかまえる・ボールに寄せる・GKと連携)
- ・プレスバック

## 切り替え

- ・【守→攻】カウンター、1タッチパス、直線(逆サイド)に飛び出す、インターセプトパス
- ・【攻→守】状況に応じ「ゴールを守る」が優先

## ゲーム内容

日本は前半立ち上がりからボールを保持し、GKを含めた4ラインをコンパクトに保ちながら試合を進めた。7分には、幾島と越智が相手陣内で積極的にプレッシャーをかけてボールを奪取。横井を経由し、ワンタッチで再び幾島へボールが渡ると、幾島はドリブルで相手DF2人をおかわし、ペナルティエリア中央付近からシュートを放って先制点を挙げた。その後もペナルティエリア内で複数の決定機を作り出したが、追加点には至らなかった。守備面では、相手のカウンター攻撃に対して素早く帰陣し、攻撃を遅らせながら対応することができていた。しかし26分、相手CKのクリアボールを回収され、日本の右サイドからクロスを上げられると、マーク対応が不十分となり、ワンタッチシュートを決められて同点とされた。失点直後には、越智がペナルティエリア内で倒されPKを獲得。しかし、下鶴のシュートは相手GKに阻まれ、勝ち越しとはならなかった。40分には、幾島と越智のパス交換からペナルティエリアへ侵入し、後方を向いた越智が横井へパスし、ペナルティエリア内でボールを受けた横井が冷静にワンタッチシュートを右サイドネットへ流し込み、2-1と勝ち越しに成功した。しかし、その直後の41分、相手右サイドからGKとDFライン間へ浮き球のパスを送られると、日本DFライン背後へ走り込んだ相手選手にコントロールされ、GKの処理も中途半端となったところをおかわされ、無人のゴールへシュートを決められた。これにより、再び2-2の同点とされた。45分には、間接FKからの流れで松野がペナルティエリア内でボールを受け、相手DFに挟まれながらこぼれたボールを幾島がワンタッチで押し込み、3-2と再度リードを奪って前半を終了した。

後半開始直後の49分、相手に中央から右サイドへ展開されると、GKとDFライン間へグラウンダーのクロスを入れられ、走り込んだ相手選手にワンタッチで合わせられ失点。3-3の同点に追いつかれた。53分には、相手のパスミスから、横井が中央へ走り込んだ松野へ縦パスを供給。松野はワンタッチで前向きにサポートに入った下鶴へ落とし、下鶴はファーストタッチでペナルティエリア内へ侵入すると、右足でゴール左隅へ冷静に流し込み、4-3と再び勝ち越しに成功した。その後も前半同様、GKを含めた4ラインをコンパクトに維持しながら試合を進め、サイドを起点として多くのチャンスを創出した。クロス攻撃やCK、前線・中盤で連動した守備からボールを奪っての速攻など、複数回の決定機を作り出したものの、GKとの1対1を含めて決め切ることができず、追加点を奪うには至らなかった。守備面では、対人局面で優位に立つ場面が多く見られ、前線および中盤からの守備、さらに状況に応じてゴール前を粘り強く守る対応も見せるなど、組織的にプレーすることができていた。